

なんたん

No. **25**

農業委員会だより

平成26年10月号



ほら見て!!
僕が捕まえたんだよ

清流美山川の鮎まつりが8月17日に開催され、
大勢の方で賑わいました。



- 農業委員会のうごき…………… 2~3
- 地域農業を支える…………… 4~5
- 食と農業 その14 …………… 6
- まちかど通信…………… 7
- なんたんあっちこっち他…………… 8

発行 南丹市農業委員会

編集 南丹市農業委員会広報委員会

TEL.0771-68-0067 FAX.0771-63-0654

〒622-8651 京都府南丹市園部町小桜町47

E-mail: co-nougyou@city.nantan.kyoto.jp

URL: <http://www.city.nantan.kyoto.jp/www/resource/nougyou.html>

農業委員会のうごき

視察研修を実施しました。

8月29日に京丹波町の「農事組合法人京丹波ほたるの里」に視察研修に行きました。

農機具の格納庫や鳥獣被害対策の現場視察ののち、京丹波町安井公民館にて、スライドを使いながら組合が設立されるまでの経過や設立後の取組み、現状と課題などについて説明を受け、その後役員の方々と意見交換をしました。

「京丹波ほたるの里」は、農業者の高齢化や担い手不足が課題であった隣合う安井地区と塩田谷地区で、「集落営農が必要ではないか」との声があがったことをきっかけに100回以上の準備委員会をへて平成19年9月に農事組合法人として設立されました。

農機具について熱心に説明を受ける



スライドによる説明を受ける

農作業に関わる人の確保や人材育成、農商工連携の具体化、さらには非組合員の理解を求めるなど、数々の課題はあるものの「美しいふるさとをみんなの力で守っていこう!」を合言葉に水稻や黒大豆などを生産されています。またその他にも、消費者との交流イベントを開催するなど地域の特色に応じた活動やPRもされています。

二つの地区が協力し、設立された組合が、コストダウンを図りながら集団で楽しく、作業を効率的に行うなど役員を中心に検討を重ね、イキイキと農作業をされている様子や美しい水や環境をみんなの力で守ろうという姿勢に共感しました。



意見交換

荒廃農地の発生・解消状況に関する調査を実施します。ご理解とご協力をお願いいたします。

11月10日（月）から14日（金）の5日間、農地の利用状況調査を実施します。

主な対象地は平成25年度の耕作放棄地としていますが、無断転用や遊休荒廃農地の早期発見や農地の現状把握を行い、早期改善に向けて所有者の理解と協力を求めることとしています。

※調査に伴い、必要に応じて農地に立ち入ることがありますので予めご了承ください。

農業情報が満載!
~全国農業新聞を購読しませんか~



☎ 0771 (68) 0067

発行日 毎週金曜日
購読料 月額600円
申込み 南丹市農業委員会
事務局へ

農業情報たっぶり。
暮らしと経営に役立つ農業情報や、全国各地の元気で特徴ある面白い話題やイベント情報が掲載。



農業委員活動支援事業

農業委員会では、農作業等を通して食育の推進を目的とする事業を3名の女性委員を中心に進めていますので事業の一部を紹介します。

晴天に恵まれた6月4日、西本梅小学校3年生の8名と黒豆の種まきをしました。「半分は枝豆で、あとの半分はきな粉にしよう。」と計画を立て、一粒ひとつぶ丁寧に種をまきました。児童達のまいた種は、1週間後には土を割って立派な芽が顔を出し、その後も順調に大きく生長していきました。そして、夏休み前の7月15日暑い中、児童達は汗をブルブル流しながら、黒豆の生長と共にワサワサと生えた雑草を一生懸命引きました。8月、台風12号の接近で少し水害にあったものの、児童の想いが届いたのか大きな被害にはならず黒豆は順調にブクブクと育っていきました。



秋風が心地よく感じるようになった9月16日、10月中頃に収穫時期を迎える黒豆の枝豆より一足早く紫ずきんの枝豆を収穫してもらうことにしました。夢中になって収穫する児童達からは、「わ～あ。1本にいっぱい枝豆がなってる。」「ポンポンにふくらんでる。」など、口々に収穫を喜ぶ声が聞こえてきました。事前に収穫した枝豆を塩ゆでしておき、収穫後にみんなで食べると、「さっき給食を食べたのにこれは別腹や！おいしいなあ～。」と満面の笑みを浮かべながら秋の味覚に舌鼓みする児童達の姿があり、改めて食の持つパワーを感じました。「今度は黒豆の枝豆を食べて、その他はきな粉にしようなあ～。」と約束をして大きな袋を抱えて学校へ帰っていく児童達を見送りました。

「南丹ブランド推進事業助成金交付事業」 をご存じですか！

南丹市で生産した安全で高品質な農林水産物を多くの方々に提供及び情報発信し、それらの価値や魅力を伝え、南丹市をPRしていただいている生産者を支援するため、「南丹ブランド推進事業助成金交付事業」を実施しています。地域の農林水産物を活用した加工品や特産品を開発し、その魅力や価値を全国に発信する取組を通じて地域振興に寄与できると見込まれる団体の事業が対象となります。

【補助率】 補助対象経費の2分の1以内 【対象経費および補助限度額】

	補助限度額	対象経費
事業①	上限50万円	特産品開発施設もしくは農林水産物加工所の改修または農林水産品加工機械の更新などに要する経費
事業②	上限20万円	特産品または農林水産加工品のPR活動やHPの更新などの情報発信に要する経費
事業③	上限10万円	特産品または農林水産加工品に係るパッケージ、シールなどの製作に要する経費

第2期募集期間：平成26年12月10日（水）まで

第3期募集期間：平成27年1月5日（月）から平成27年2月27日（金）まで

提出方法：必要書類を作成し、農政課もしくは各支所産業建設課まで

※制度活用についての詳細は、農政課にお問い合わせください。

相談及び問合せ先 南丹市農林商工部 農政課 ☎0771-68-0060



南丹市美山町
向山集落を訪ねて

新向山橋

地域農業を
支える

あの人この団体!

地域農業の発展を目指し、力強く活動されている団体や個人の農業者をシリーズでお送りしております。

今回は、美山町内での個人や団体の活動を紹介します。

地域の概要

南丹市美山町向山は、国道27号線を京丹波町升谷から美山町に向かつて由良川を右に眺めながら大野ダム公園を過ぎて車で約2〜3分のところ。由良川に架かる新向山橋を渡った所を中心に20戸の家が点在する集落で、ほとんどの家が兼業農家として、主に米と自家野菜を栽培しています。

集落に行ってみると、斜面が続く畑地で高齢の方が、鍬を用いて一打一打しながら豆を育てておられ、少し話をうかがってみると、「大野ダムが完成する昭和30年代後半までこの地は、車が由良川により走行がままならず、全て手作業で生活を守っ



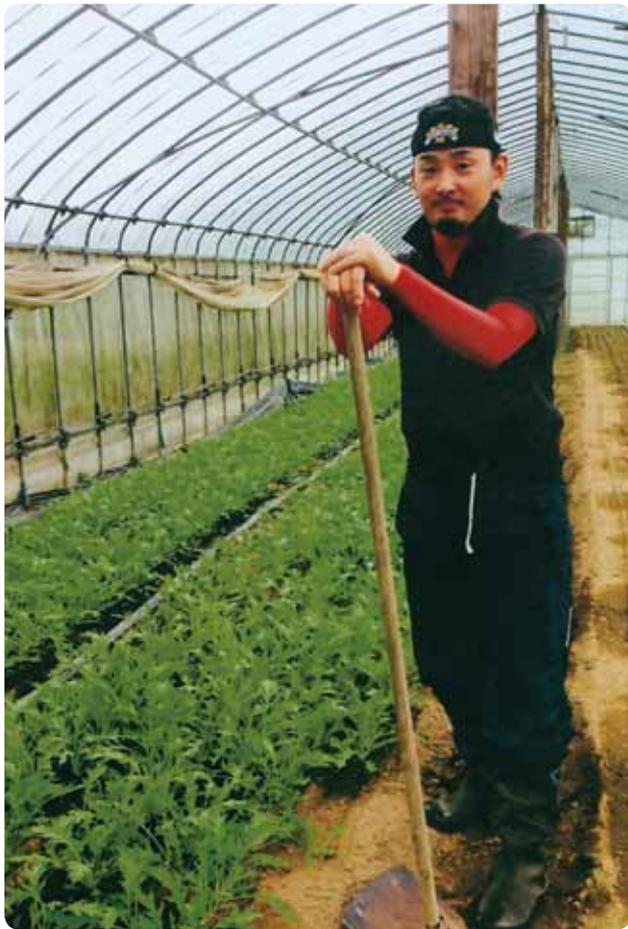
てきた。」とのこと。

『自分たちの地域は、自分たちの手で守る。』そんな団結力とそれらを支える強い絆を感じました。

農業への取り組み

向山では、古くから有害鳥獣被害対策に共同で取り組んでこられました。金網フェンスや電柵を自費で設置されるなど、二重三重の防護に取り組んでいます。

また、30年以上前から京都府の指導で、20人の女性たちが、当時美山町では初めて「みそ」の加工販売を手掛けて家計を支えてきました。近年は、若手農業者達が先人達を手本に「ゆず」の栽培、加工、販売を目指し頑張っています。



「水菜」の栽培をする福井悠樹さん

いきいき若手農業者を訪ねて

〜福井悠樹さんの手記より〜

私が農業に思いを募らせたのは20歳の時でした。農作物が育つ過程を、母から日々見聞きする中で学びました。専業で農業をしている母を手伝ううちに、野菜作りの魅力にひかれ、本格的に就農を希望して農業技術者から指導を受けるようになり、研修を重ねてきました。

現在は、実践農場研修で、『九条ねぎ』と『みず菜』の栽培技術を学んでいます。

農業で生計を立てる事は、大変厳しいことだと思えます。二年間の研

修で学べる限りの事を吸収して、就農技術を身につけたいと思っています。

私は、「若いのに農業をして楽しいか？」とよく聞かれます。もちろん迷うことなく「楽しいです。」とお答えしています。農業を始めるのに年齢は関係ないと思います。若いからこそできることもたくさんあるはず。

私は、水と緑の美しい自然豊かな美山町で、子どもが安心しておいしく食べるのできる野菜を作り続け届けていくことに誇りを持って頑張っています。

イベント訪問



まーちゃんうーぽー&風人ブドウり太鼓

◎夕涼み会

〜手作りのおもてなし〜

(主催…向山区有志の会)

8月15日『夕涼み会』が開催されました。帰省している人も参加して夜店など、手作りのおもてなしを企画。

ステージは、大型トラックの荷台。ユニークな設営で音響も照明も全てが手作り。

今年のステージショーでは、西表島の三味線アーティスト『まーちゃんうーぽー&風人ブドウり太鼓』が沖縄の歌と踊りで会場を盛り上げました。

参加者たちは、夏の夜空に笑顔の花火を打上げていました。

地域うまいもん！ ～『むかいやまやき』～

向山の女性グループ7人が、子どもから大人まで誰もが手軽に食べられる“食”として用意したのがオリジナルのミニお好み焼き「むかいやまやき」です。

ベーコン、キャベツ、天かす、紅ショウガが入って、目玉焼きで天盛りし、しょう油のタレと青のり、粉かつおで仕上げます。

ボリューム満点！調理時間が短くイベントに最高！おもてなしの心を感じる一品は、美味でございました。



【取材…梅津義明委員】



地域を越えた農業振興

良食味米の生産と

基幹品種を求めて

京都府中丹・南丹地域の特産米として『キヌヒカリ』を奨励品種に編入して23年が経ち、今日まで計画的な生産拡大を進め水稲主要品種の一角をしめています。しかし、『キヌヒカリ』は初期の分けつが旺盛でないことや、収穫が遅れた時に高温多雨の条件が重なる、穂発芽することがあることから、普及センターでは地域によって異なっているが、気象や土壌条件に応じた栽培技術確立に向け、水管理、肥料の効果、カメムシの防除のポイント、収穫期の判定等栽培に当たっては、失敗しないためのポイントを基本技術にまとめています。

～『キヌヒカリ』の栽培ポイント！～

- ★水管理／植付直後 深水管理、中干しと浅水管理、出穂期 深水管理
- ★肥料の効果／元肥（代かき又は植付直後）
穂肥（初回は出穂の20日前）（2回目は出穂の10日前）
- ★カメムシ防除のポイント／出穂20日前の草刈は必ず実施し出穂後薬剤を散布
- ★適期刈取／5月上旬、中旬植 出穂後40日
- ★食味／冷めても変わらないことから、お弁当、すし、おにぎり等専門家に好まれる傾向にある



作業風景

※詳しくは南丹農業改良普及センターまたは、JA京都各支店生産課へお問合せください。

資料提供：南丹農業改良普及センター・JA京都営農部

【取材：梅津義明 委員】

新品種、京都丹波米

『きぬむすめ』試験栽培続く

「きぬむすめ」は、平成4年に九州沖繩農業研究センターで育成され、名前の由来の通り『キヌヒカリ』と『祭り晴』を両親に持つキヌヒカリの娘です。

温暖化による米の品質向上対策として、試験栽培に取り組み本年度（平成26年）については、広域営農センターを中心に丹波管内では8ヶ所で行っています。



レストランが 自家栽培に挑戦

八木町神吉
（株）菊岡夫婦社
きくおかめおとしや



栽培しているコリアンダー

南丹市八木町神吉地域で、平成26年5月より食品会社の（株）菊岡夫婦社が農地の賃借で約20^{アール}を借り、自社経営のタイ料理の原材料に欠かせないパクチー（コリアンダー）の栽培の取り組みを始められました。

国内での生産量が少なく、年々その材料確保が難しくなるため、新鮮で安定的に材料を確保し、かつ安価に入手する対策として自家栽培方法を検討。そのための農地確保について南丹市農業委員会に相談されました。ちょうどその頃、南丹市八木町神吉地域内の農家で、農地の借り手

安心安全な京の伝統野菜

日吉町胡麻
たけごち
谷口 成生さん

谷口さんは、南丹市日吉町胡麻地域で、両親と仕事の連携を図りながら、京野菜として販路の安定した王生菜のハウス栽培などに取組み、専業農家として堅実な農業経営を進めています。

早朝5時半。谷口さんの茄子畑にお邪魔すると、すでに谷口さん夫妻は仕事にとりかかっておられました。日頃から「そつ」のない働きぶりには、誰もが関心しており、夫の

を探しておられましたので紹介をし、現地の案内をしました。

神吉地域は、ハウス栽培によるみず菜・九条ねぎ・トマト等の京野菜の栽培が盛んで、葉物野菜に適した農地で在ることを自ら確信し、神吉地域の皆さん方の協力を得ながら、この地での自家栽培の決意をされました。これからも、新規就農の方々も、神吉地域での農業経営を切望され、地域の活性化が進むことを願います。

【取材：小川幸雄委員】

成生さんは収穫作業、妻のいつ子さんは虫を探して捕殺し、食害の葉の除去や整枝と手慣れた動きでした。いつ子さんの作業は、無農薬栽培の要となっており、最も重要な作業で、有機肥料も切らさず施用しています。

管理で大切なのは、「定植後生育初期の地温管理と湿度管理です。」と話す一方で、愛情を込めて育てた茄子が、イノシシの被害に遭い、「朝来てみたら喰われるわ、枝を折られるわで大損害でした。次の枝が出そろうまで時間がかかり、なかなか気持ちも立ち直れなかった。」というお話も聞かせてくれました。今や安心安全でおいしい食べ物を



パクチー栽培の様子

消費者に提供するのには当たり前です。消費者の口に入るまで、責任を持って生産しなければ当てにできません。出来ない時代であると痛切に感じました。

【取材：塩貝孝司委員】



「なすび」栽培をする
谷口成生さん・いつ子さん夫妻

なんたん

あっちこっち

とにかく広い南丹市。

南丹市のあちらこちらでは、その地域ならではの面白く、楽しい、また興味深い取り組みがされています。

そんな南丹市の、あっちこっちのできごとを紹介します。



南丹市立大野小学校 〜私たちが育てた「お米」



さわやかな秋晴れの午後、大野小学校の先生と児童の皆さんが、学校近くの田んぼで地元農家の方と稲刈りを体験していました。

大野小学校では、この他に野菜も栽培しており、作物の成長と共

に大きくなる「大野の子」のたくましさを感じます。

今では機械化によりほとんど見ることがなくなった鎌で稲を刈り、束ねて稲木に干すという作業をしています。

そこには、約0.5反のほ場で最後まで根気よく頑張る児童の姿があり、食育の原点である地産地消の風景が広がっていました。

【取材：梅津義明 委員】



朝倉神社の「大杉」



この大杉は、園部町千妻の朝倉神社の神木として、古くから地域の人々に親しまれ保護され、その間いく度かの落雷災害にも耐え今日に至っています。

天保10年（1839年）の「奉買請御帳ちのこ木之事」という買受証文には、千妻村の人々が山方奉行から当神社の神木として10両2分で買い取ったことや、当時この杉は、幹回りが1丈5尺2寸（4.6m）であった事が記されています。

京都府には、こうした神木は多いが、そのうちでも最大といえる巨木であり、天保10年から今日までに幹回りが11m余りとなっており、175年余りの期間に6.4m増大し、今も成長している貴重な樹木です。

昭和58年には、京都府指定文化財（天然記念物）として指定されています。

【取材：藤田瑞穂 委員】



委員ぶらり旅

「畑川ダム（京丹波町）」を訪れて

京都府内には大きなダムが5か所あります。

そのうち、南丹市には、水資源機構所管の「日吉ダム（日吉町）」と京都府所管の「大野ダム（美山町）」があり、京丹波町には、平成25年3月に完成した京都府所管の「畑川ダム」があります。

「日吉ダム」と「畑川ダム」については、いずれも南丹市日吉町・八木町の一部の地域が水源地域となっており、地域住民にとっては、欠かせない大切な役割を担っています。

それぞれのダムによって、地域の活性化が図られ、また下流地域の保全に大きな役目をはたしています。

ダムは、次のような働きをしています。

- ① 河川の洪水被害を防止するための河川流量の調整
- ② 水道用水や灌漑用水を確保し安定した水の供給
- ③ クリーンエネルギーである水力発電に活用



- ④ 河川環境保全として、渇水時の維持流量の確保

みなさんも、大きな湖面の風景を、紅葉できれいな時季に散策してみませんか。

【旅人：小川幸雄 委員】

編集後記

実りの秋を迎え、農家は大忙しの毎日です。夏の度重なる雨で収穫に影響が出ていないか心配です。また、大雨による被害を受けられた方々には心からお見舞い申し上げます。（中野貞一 委員）